

今年の冬は寒暖の差が激しく、体調を崩しやすかったのではないのでしょうか？インフルエンザは A 型と B 型の混合流行でした。そのためか、流行期間が長引きました。せっかく、今シーズンから A 型 2 種類、B 型 2 種類のワクチンとなったのに納得のいかない思いです。今年度は 2 年に 1 回の診療報酬改定の年に当たります。2025 年問題とは、団塊の世代が後期高齢者（75 才）になる年です。日本が世界に誇る国民皆保険制度を守っていくために、小刻みな制度改革が必要なのです。当院のような、町の小さな診療所は、小さな変化の積み重ねです。方向性としては様々な医療、福祉関連施設との連携、地域社会への貢献、医薬品については信頼できる後発品（いわゆるジェネリック）の採用、といったところが当院の目指すところだと思います。この 10 年間は医療と福祉の改革期を迎えています。



[最近目立つ病気]

インフルエンザは A、B の混合流行でしたが、ピークは過ぎてきました。A 型は少なくなり、B 型が相対的に目立っています。B 型の症状は個人差があり、微熱から高熱までいろいろです。花粉症と迷うような軽症の人であれば、典型的なインフルエンザ（高熱・頭痛・関節痛）の症状で発症する人もいます。嘔吐や下痢等の消化器症状も A 型に比べて多いような印象です。症状が軽くても抗インフルエンザ薬の効き目が悪く発熱が長引く人も多います。どちらかと言うと、B 型の方が厄介な感じ

です。おたふくかぜ、伝染性紅斑（リンゴ病）はあいかわらず流行中です。ウイルス性胃腸炎、溶連菌感染症、アデノウイルス感染症も目立ちます。水痘は局地的な流行がみられています。花粉症の人が多くなってきました。花粉症の人が多くなってきました。花粉症の悪化が 1 週間以内で軽快しなければこの時期は花粉症の可能性があり

[ジカウイルス感染症]

ジカウイルス感染症は、ネッタイシマカやヒトスジシマカなどが媒介することで惹き起こされる蚊媒介感染症です。ヒトからヒトへの直接感染はないと言われていたのですが、まれに献血や性交渉による感染の報告があります。近年、中南米で流行がみられ、昨年ブラジル保健省は妊娠中のジカウイルス感染症と胎児の小頭症に関連性があることを発表しました。今年の 8 月、9 月にはリオデジャネイロでオリンピックとパラリンピックが開催されることから、世界中で注目されています。

ジカウイルスはデングウイルスと同じフラビウイルス科に属し、症状はデング熱に類似しますが、それより軽いです。

ジカウイルスは、1947 年にウガンダの Zika forest（ジカ森林）のアカゲザルから初めて分離され、ヒトか

らは 1968 年にナイジェリアで行われた研究の中で分離されました。WHO によると、2015 年以降 2016 年第 2 週までに、中央および南アメリカ大陸、カリブ海地域で症例が報告されています。



潜伏期間は 3~12 日です。不顕性感染率は約 80%とされています。過去の流行では詳細な症状の解析がなされていません。2007 年のマイクロネシア連邦（ヤップ島）の流行では、発熱（38.5℃を超える高熱は比較的まれ）、斑状丘疹性発疹、関節痛・関節炎、結膜充血が半数以上の症例に認められ、筋肉痛・頭痛（45%）、後眼窩痛（39%）というものでした。その他にめまい、下痢、腹痛、嘔吐、便秘、食欲不振などをきたす場合もあります。また、ポリネシア連邦やブラジルの流行では、ギラン・バレー症候群や神経症状を認める症例が報告され、ブラジルでは妊婦がジカウイルスに感染することで胎児が感染し、小頭症児が多発しています。ジカ熱そのもので健康な成人が死に至ることはまれですが、基礎疾患があり免疫力が低下している場合は死に至ることもあります。通常は 4~7 日間症状が持続します。実験室診断は PCR によるジカウイルス遺伝子（RNA）検出、IgM 抗体検査やペア血清による中和抗体検査など、血清学的診断を行います。臨床的にはデング熱、チクングニア熱と症状が類似しているため実験室診断が必須ですが、デングウイルスとは近縁であり血清学的には交差反応が認められます。黄熱ウイルス、日本脳炎ウイルス、マレーバレー脳炎ウイルスなどのその他のフラビウイルスとの交差反応もあるので診断には抗体価の比較が必要です。

治療は、痛みや発熱に対して解熱鎮痛剤を投与する程度にとどまるものがほとんどです。脱水症状が強い場合は輸液が必要となる場合もあります。予防に関しては、日中に蚊（ヤ

ブカ）に刺されない工夫が重要です。具体的には、長袖服・長ズボンの着用、昆虫忌避剤（ディート、DEET [N,N-ジエチル-3-メチルベンズアミド] を含むものが効果が高い）の使用などです。また、妊婦あるいは妊娠の可能性のある女性はジカ熱流行地への渡航を避けることが望ましいとされています。

[ワクチン最新事情]

平成 28 年 2 月 5 日、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会基本方針部会は、B 型肝炎ワクチンについて平成 28 年 10 月から定期接種化する方針を了承しました。予防接種法における分類は A 類疾病となります。また、母子感染予防事業の対象者については、健康保険の給付により HBV ワクチンの投与を受けた者については定期接種の対象外とすることとされました。接種対象者は平成 28 年 4 月以降に出生した 1 歳未満の乳幼児で標準的な接種期間と回数は生後 2 ヶ月、3 ヶ月、7~8 ヶ月の 3 回で 1 回に 0.25ml を皮下注射します。

MEMO



☆大手町の夜間急病診療所（Tel:222-0099）では午後 7 時から 11 時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は 3/31、4/24、5/22、6/2、6/26、7/7、7/21 の予定です。なお、5/4 は当番医です。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン（おたふくかぜ・インフルエンザ）についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆世界の宝「憲法 9 条」を次の世代に贈りましょう。

